

JAPAN EXPO 2015 ～三者三様、地方の魅力の売り込み方～

欧州最大の日本文化の祭典・ジャパンエキスポ。第 16 回となる今回は、7月 2 日（木）～5 日（日）の 4 日間、パリ北方シャルルドゴール空港近くのノールヴィルパント展示場で開催されました。折しもフランス全土を熱波が襲い、開催前日の 7 月 1 日にはパリの最高気温が 40℃ 近くに達するなど、例年に増して「暑くて熱い」エキスポとなりました。



会場最寄り駅も日本仕様に

今年も、観光庁・自治体がブースを出展し、フランスはじめ欧州の日本ファンに向けたインバウンドや地域プロモーションの機会として積極的な PR 活動を行いました。このうち、クレアパリ事務所でブース運営補助や荷物預かりなどの支援を行った 3 つの自治体の活動内容をご紹介します。

鳥取県一知事が PR 「まんが王国とっとり」

2 年連続の出展となった鳥取県のブースでは、フランスの芸術文化勲章シュヴァリエを受賞している鳥取市出身の漫画家、谷口ジロー氏の作品を中心として展開。4 日には特設ステージなどで、平井伸治知事による、やはり鳥取と縁の深い「ゲゲゲの鬼太郎」の鬼太郎・「名探偵コナン」のコナン君とコラボした、観光や製品のトップセールスがありました。元クレアニューヨーク事務所長（2006～07 年）でもある平井知事は、フランス語での PR を行い、観客席を埋めた若者の心を見事につかんでいました。



長崎県のうどん・そうめんを買いに並ぶ来場者

長崎県－長期戦略が実り「麺」本格販売へ

長崎県は、県と事業者が協力し、「島原そうめん」「五島うどん」に代表される長崎の麺文化をヨーロッパに広める長期ビジョンのもと、昨年に続いて出展しました。昨年の試食提供が大好評だったことを受け、今年はいよいよ本格販売を実施。それに伴いブースもカフェテリアエリアに移動しました。事前調査を行い、醤油だれを甘めの味付けに変えるなど、現地の嗜好に合わせる工夫を重ねた結果、寿司や弁当に比べてまだまだ馴染みの薄い麺類にもかかわらず、お昼時には多くの来場者が列をつくりました。

高松市－「アート」の街」伝統と現代美術



地元 CATV 局の取材を受ける高松市 CIR

京都市（第 13 回）、福岡市（第 14 回）、札幌市（第 15 回）に続き、第 16 回の「招待都市」に選ばれた高松市は、主催者による同市のパネル展示を活用する形で初めてブース出展し、観光・物産 PR を行いました。2013 年から同市で勤務している CIR（国際交流員）がお遍路姿に扮し、市の特産である松盆栽から直島に代表される現代アートまで、

「Ville des Arts（アートの街）」を来場者にアピールしました。お遍路文化や瀬戸内海の風景、島でのユニークな体験が、東京・京都の「次」を探しているリピーター層から特に注目され、最終日まで客足は途切れることはありませんでした。

今年も 24 万 7 千人（主催者発表）という他に類を見ない数の日本ファンを集めたジャパンエキスポ。「まんが」「食」「アート」など、どの自治体も来場者の興味をうまく引き出すような切り口を考えて地域資源を PR していました。また、参加した自治体の担当者からは、ブースでの会話やアンケートを通じて、ヨーロッパに住む若者からの生の声を聞くことができた、マーケティングの場としても大変有効であったとの感想がありました。

クレアパリ事務所では引き続き、フランスで開催される展示会・見本市の出展サポートを行っています。お気軽にお問い合わせください。

（細川所長補佐 香川県高松市派遣）

【活動支援に関するお問い合わせ】

クレア企画調査課 メール：kikaku@clair.or.jp

TEL：03-5213-1722